

＜ もくじ ＞	
1. 2022年度総会・大会開催のお知らせ（再掲）	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 研究会からの概要報告	3
4. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2022年度総会・大会開催のお知らせ（再掲）

(1) 2022年度定例総会

2022年度総会は、6月26日（日）に開催いたしますが、コロナ感染のことを考えますと多くの会員にお集まりいただくことは困難であり一昨年度および昨年度と同様、小規模開催とすることになりました。一般会員の皆様には総会議案の議決につきまして、電磁式（電子メール）および郵送を組み合わせた方法による議決権行使をお願いすることになり、すでに多くの会員の方からフォームおよびメール、ハガキでの委任状あるいは議決権行使をしていただきました。

また、ご回答いただいていない会員の方は、6月24日（金）まで受け付けておりますので、委任状または議決権行使をよろしくお願い申し上げます。

(2) 2022年度第21回大会

今年度から当学会では、2021年度の長期計画検討委委員会の議論を踏まえて、従来の超高齢化、人口減少に加えて、新自由主義と働き方改革（非正規労働の拡大）、ICT・AI技術の発達、そしてコロナ禍など、時代の大きな変化を背景に、格差や差別の問題についての現状を再確認し、今後の当学会の課題を見直すことを3年間の大会の共通テーマとして掲げることになりました。そして、その第1年目のテーマとして、今年度は「現代日本における年齢格差～若者世代と高齢者世代の協調・連帯を求めて～」としました。2年目は、ジェンダーの平等を扱い、3年目はあらゆる格差や差別を撤廃し、「誰ひとり取り残さない社会」の実現をめざすための課題を検討したいという構想です。

現代社会は、高齢者世代と若者が共に生活する上で、働き方の急激な変容やキャリア変更への要因の多様化、ICTやAI技術の発達により情報環境が大きく変化したこと、コロナ禍に対する対応などから知識や経験の質が変わり、必ずしも高齢者の経験や知識がつねに優位に立つわけではなく、また相互の理解に基づく協力や支援の意味も変化し、新たな課題が生み出されているように思われます。2022年度大会は、基調講演として実践女子大学の原田 謙先生に、コロナ禍を背景に社会調査から見えてくる世代間関係についてのお話をいただき、高齢者の立場から2名、若者世代の立場から2名のパネリストに世代間の間に見られる協調の難しさや抱えておられる問題などについてお話しいただく予定です。現代日本における年齢格差をめぐる実態を深く見つめる機会になることを期待しております。

- 1) 日 時：2022年6月26日（日） 14:00～17:00
- 2) 開催方法：会場開催（オンライン併用）
- 3) 開催場所：日本労働者協同組合連合会会議室 池袋IPSビル8階
- 4) 大会テーマ：「現代日本における年齢格差～若者世代と高齢者世代の協調・連帯を求めて～」

I. 基調講演：原田 謙（実践女子大学教授）

「エイジズム」を再考する：ポストコロナ時代の世代間関係

II. パネルディスカッション

- ・司会：袖井孝子（当学会会長）
- ・パネリスト：
 - ★ 小原芳郎（自然観察指導員）
 - ★ 寺本眞子（当学会会員、共生まちづくりコーディネーター）
 - ★ 小暮 航（ワーカーズコープ広島）
 - ★ 野坂 真（当学会会員、早稲田大学講師、大槌町で調査・支援活動に従事）
- ・閉会の辞：濱口晴彦（当学会副会長）

5) 参加費：1,000円（Peatix、振り込み）

参加費の払い込みは、昨年の連続講座と同様、原則として事前にPeatixから払い込んでいただくようお願いいたします。銀行振り込みも受け付けます。参加費の払い込みについて詳しくは、5月にお送りした大会プログラムをご参照ください。Peatixでの支払い、振り込みでの支払いができなかったり間に合わなかったりなどの理由で直接会場に来られる方もいらっしゃることを想定し、会場でもお支払いを受け付ける準備はいたします。どうぞ、お気軽にご参加ください。

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第79回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年6月23日（木） 15:00～18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：発表と討議 — 憲法論議・第2回—『基本的人権がアブナイ』
- 4) 発表者：佐藤 敬
- 5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願いいたします。

(2) 第23回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年6月25日（土） 17:00～20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他YNS やまぶき任意後見サポート会
- 4) テーマ：認知症と任意後見制度

劇団「^{びしょうざ}B笑座」第10回。

「認知症とは」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます

※お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願いいたします。

(3) 第33回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：6月29日（水） 17:30～19:30
- 2) テーマ：ハードなテーマが続いたので、初夏のアイスブレイク&一休みのweb 飲み会開催を予定しています。現在、自分の関心のあるお話、好きなジャンルのお話、最近、再開した趣味のお話など、各々5分間お話していただきます。既に決定している参加メンバーの提供話題は、
【ジャズと譜面の見方】
【私の好きな俳句】
【茶道を再開したワケ】
【自分の思いを川柳に込めて】
【私とガーデニング】
【薬よもやま話 その二】
【私と読書】
【社会復帰？ いえ、(写真) 復帰しました!】

この機会に、当研究会を覗いてみたい皆さん、是非、ご連絡ください。

連絡先：nakamurayoshiko6@gmail.com

(4) 第33回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年7月20日（水） 15:00～17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) 概 要：俱進会助成事業 インタビュー調査進捗検討

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(5) 第142回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年7月27日（水） 18:00～20:00

2) 報告者：佐藤 唯（東京福祉大学講師）

3) テーマ：「単身高齢社会における人生会議のあり方とは」

4) Zoom でいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

（阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com）

※ご質問がありましたら、阿部（旧姓佐藤）まで 090-4436-6853

※なお、6月はお休みいたします。

3. 研究会からの概要報告

(1) 第141回「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2022年5月25日（水） 18:00～20:20

2) 報告者：水谷 忠由（厚生労働省保険局医療介護連携政策課長）

3) テーマ：「デジタル化で変わる我が国の医療」

4) 参加者：15名

目下、厚労省がめざしているデータヘルス改革では、健康・医療・介護分野のデータを有機的に連結するために①ゲノム医療・AI 活用の推進、②自身のデータを日常生活改善につなげる Personal Health Record、③医療・介護分野の情報利活用、④データベースの効果的な利活用があげられる。

その一つが、マイナンバーカードの健康保険証利用であり、医師・薬剤師等は（本人の同意のうえで）患者の情報を確認することができるので、より良い医療が提供できる。他方、個人は、自分の医療・薬剤情報を知ることで、自分の健康を管理することが可能だ。厚労省は、本年度末までにすべての医療機関や薬局に顔認証付きカードリーダーの設置をめざしているが、現在、申し込みは施設全体の6割弱、設置完了は4分の1、運用は2割弱にすぎない。

さらなる対策として、①来年4月からはシステム導入を義務付ける。②マイナンバーカードの保険証利用を促進するための財政措置を行う。③令和6年度以降は、保険者による保険証の発行を選択制にする、等があげられる。今後は、デジタル化を一層促進するために、電子処方箋の導入や電子カルテの普及をめざしている。電子カルテは医療機関ごとにさまざまであり、統一は難しいので、外部出力する際に標準化するフォーマットを作成した。

医療に比べて標準化の難しい介護におけるデジタル化は一周遅れであり、ネットワーク化は進んでいない。厚労省は経産省と協力して、移乗、排泄、見守りなどへの介護ロボットの導入を進めている。介護ロボットの導入によって、どれだけ効果があったのかを知るために目下、実証実験中である。科学的介護を推進するために、利用者の状況変化を入力することに対して加算を付けている。

参加者からの質問に対しては、①システムが発足した昨年10月以降の情報しか入力できないので過去に遡ることはできない。②カードリーダー導入が遅れている理由にシステム業者との調整困難、様子見、歯科診療所ではオンライン請求が少ないことなどがあげられる。③システムに乗せたくない情報の一つである手術については乗せないことにした。④認知症や高次脳機能障害の人については本人の意思決定を支援する方向で考えたい、などの回答があった。（袖井孝子 記）

(2) 第31回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2022年5月25日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：上野区民館201会議室とZoomのハイブリッド
- 3) テーマ：俱進会調査研究

① 全体の議論

- ・配布資料の倫理審査申請書と別紙1(調査項目案)を用いて、調査の全体を説明(八巻さん)
- ・調査の方向性について、全員でディスカッション
スマホ使用の動機の把握がとても重要
費用が高いこともスマホ利用に影響する
高齢者はスマホの契約も複雑で実は良く分からない。「GIGA量」とか「WiFi」も分からないのが普通
Facebookでなく、InstagramやTikTokに若い人が集まっていると良く話が出る。同じLINEでも「使い方が違う」と言った面にセグメントが現れる。

② スクリーニングについて

- ・インタビュー対象者20名をスクリーニング
- ・使っている方の中にはスペシャリスト級の方もいるので、その方にも入ってもらおう。
- ・市川：スマホ利用者10名(手練れ5名、普通5名)
→スマホ非利用者は確保が難しいとのこと
- ・あざみ野クラブ：スマホ利用者5名(バラエティに富んだ方)、スマホ非利用者5名(PC+ガラケー利用者)を確保。可能ならガラケーしか使っていない方も確保
- ・調査の意図は、使えない人が使えるようになるにはどうしたらいいか、なのでそのような聞き取りをしたい(八巻さん)。
- ・富田さんが準備してくださったスクリーニングシートは、リクルーターに負荷がかからないチェック形式のものに、形式変更をしていただく。
再作成したスクリーニングシートをもとにあざみ野クラブとナルク市川でリクルートをしていただく。
- ・次回(6月15日)には、スクリーニングシートに記入した対象者リストを完成する。

③ 本調査の流れの確認

- ・富田さんが準備してくださった事前アンケート①と②について検討。
- ・調査対象者が答えやすい質問形式に変更する。

(森 記)

(3) 第78回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2022年5月26日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：発表と討議 — 『日本国憲法』(小学館刊)を読む～東京新聞切り抜き記事を中心にして～
- 4) 発表者：島村 健次郎

5ヵ月ぶりに対面形式で10名が出席して開催。テーマは、去る2020年1月の第73回例会において、ピブリオバトルで紹介された写真付きの小学館刊版『日本国憲法』を、発表者自身が購読している東京新聞の「切り抜き記事」を通じての発表と討議であった。

新聞記事切り抜きは、2020年1月からスタートして以来、記事件数は267件に及んだが、その内訳は、一番多かったのは第96条関係で85件(32%)、第2位は第9条関係で69件(26%)、第3位は第3章関係で45件(17%)。そして前文関係は14件(5%)であったこと。東京新聞の憲法に関する論調は、護憲の立場ですが、今後私たちが「憲法改正」について論議して行く際には、護憲・改憲に偏らず冷静に対応することが肝要であると思うと述べた。

発表の後、活発な意見交換が行なわれたが、出席者それぞれの憲法に対する思いが浮かび上がり、

興味深い意見交換となった。

最後に、濱口座長は多岐に亘る視点から『日本国憲法』を解説された。日本人を臣民・国民・人民という3つの言葉に区分し、日本国憲法を読み解かれた。憲法は建前であること。そして空語という考え方についても述べられた。憲法は建前であるとすれば、第9条の解釈の多様性を許容していることなので、沢山の論議が展開されることになるということ。論議の多様性の許容のことを隙間、あるいは隙間が多くあるという意味で使ったのだらうとコメントされた。(島村 記)

(4) 第22回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2022年5月28日(土) 17:00~20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症を楽しく過ごすには

劇団「^{びしょうざ}B笑座」第9回。

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。日々の練習の成果がでていそうですね。Zoom参加者も増えました。今後に活かしたいと思います。

(5) 第31回「ライフプロデュース」研究会開催報告 (Zoom 開催)

- 1) 日 時：2022年5月31日(火) 17:30~19:30
- 2) 参加者：計8名 (M2名、F6名)

◇テーマ1：【男社会】で、私の生き残り戦略～妻として、嫁として、母として、働く女性として。これまで、そしてこれから。(担当：寺本真子)

男性参加者意見

・現役時代は男社会が当たり前だったから。・現役時代 女性管理職の涙を幾度となく見てきた。・現役時代 サンフランシスコ赴任中、現地では、随分と女性の管理職がいたことを思い出す。・最初、テニスで女性に負けることに抵抗があったが、今は随分を意識が変わってきた。

女性参加者意見

・やりたいことでジェンダーが理由で、できなかったことはない。・夫、男社会に守られ自分のキャリアを積んでこられた。・働き続けることは、私が頑張るか、子供が我慢するか、姑が頑張るかだったように思う。・自分で自分の人生を決断する力が、今までもこれからもテーマだと思う。・尊敬できない男性(ヒト)でも確実に出世していく社内政治を見てきた。・男性がマジョリティの業界で働くことの生きづらさ等々の意見がでた。

総論としては 結論までは導き出せなかったが 誰も日本が現状のままでもいいとは思っていない。しかし、10年後 20年後 ジェンダーギャップが改善されているであろうという未来も見えてきていないのも現状である。海外で女性の社会進出が進んだ国から日本も学べることは多くあるのではないかという意見に多くの方が賛同されていた。将来に希望を託する為には 制度改革と意識改革という両輪の改革が共に機能する日本になっていくことだと強く感じた。(寺本真子 記)

◇テーマ2 『なぜ、日本は女性政治家が少ないのか?』～男性の視点から～(担当：小川文夫 / 若井泰樹 各々、パワーポイント資料にて発表。)

●実態把握

・日本の女性議員(国・地方併)比率：約10%(世界平均：約25%)

*欧米先進国(G7)：ほぼ35%前後⇒3人に1人

●女性の立候補が少ない理由：

女性立候補比率：約17%(内閣府調査他)・地元でプライベートが確保されない。・家事・育児との両立が困難(周囲の理解、協力が得られにくい環境)・所得格差・様々なハラスメントの存在・「地盤」等の基礎的關係が弱い。*ベースに、日本の「ジェンダーギャップ指数」低水準の実態! 政治分野：

世界 147 位、他経済・教育等の分野でも超低水準 ⇒これらの要因が、女性の” 出馬意欲” を大きく阻害している。★「クオータ制」（予め一定の女性枠設定）の導入も検討されてはいるが、圧倒的多数の男性議員（男社会）の「壁」に阻まれているのが実情。

●女性の政界進出が進まない理由（日本財団意識調査） *女性 1 万人対象：

・「政治は男がやるもの」という（超古い！）価値観が根強い。・女性政治家を育てる環境の” 未成熟” ・目指すべき「女性リーダー像」の不在。⇒結果、多くの女性が、「政治家（の仕事）」に興味や魅力を感じていない。他、我が国では欧米各国とは違って、学校教育等の場面で「政治関連の話題」はタブー視されており、多くの若者も投票率の低さ等政治への関心も薄れている実態もあり、やはり地道に「制度」、「意識」、「教育」などの改革が急務と考えられる。（若井泰樹 記）

4. 事務局からのお知らせとお願い

＜皆さんの指定送付先に「エイジレスフォーラム」20号送付しました＞

2022 年度発行の「エイジレスフォーラム」20号を6月17日にヤマトDM便で、会員の皆様宛て送付しました。合わせて「2022 年度年会費納入のお願い」と「振込用紙」を同封しておりますのでお確かめください。2022 年度年会費の納入期限は6月30日です。シニア社会学会は会員の皆様の年会費で運営しておりますので、納入期限までに納入くださいますようお願いいたします。

＜会員情報変更時のご連絡のお願い＞

コロナ禍中、各種ご連絡を e メールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・e メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、e メール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

＜7月 JAAS News の発行日＞

次回 JAAS News 第275号の発行日は、7月20日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、7月13日（水）までに、学会宛の e メール添付にてお願いいたします。

＜事務所移転のお知らせ＞

一般社団法人シニア社会学会は、これまで（故）望月幸代会員のご厚意により、長年渋谷区渋谷3丁目に事務所を開設してまいりました。しかしながら、事務局員の高齢化や仕事内容の変化などにより、事務局員の数も年々減少したこと、またコロナ禍による会議の開催方法の変化に伴い、事務所への出所機会が大幅に減少したことなどの理由により、多くの企業や法人組織の利用も増えている「シェアオフィス」への移転を検討してきました。幸い、千代田区にあるシェアオフィスが当学会の利用条件に合うことがわかり、本年4月17日の理事会に運営委員会より提案し承認を得ましたので、その手続きを進めております。6月26日の総会で「事務所の場所」に関する定款の変更が認められたのち、移転します。新たな事務所の住所と運営方法については次号でお知らせする予定です。会員の皆様にも、ぜひご了解とご協力をいただきたくお願い申し上げます。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局（月1回オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>